

記者発表（資料配布）				
月／日 (曜日)	事務所名等	電話	発表者 (担当者)	配布先
10/25 (金)	県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター	0796- 36-0395	所長 眞鍋 厚 (次長 森本 利晃)	但馬県民局・ 県政記者クラブ

令和6年漁期ズワイガニ資源の状況

但馬水産技術センターでは、11月6日から解禁となる日本海のズワイガニ漁を前に、県漁業調査船「たじま」により漁期前調査を実施しました。

当該調査やその他の情報に基づいて検討した結果、令和6年漁期における本県沖合底びき網漁船が利用する海域のズワイガニ資源の状況は下記のとおりです。

記

1 但馬沖漁場（解禁直後）

- 本県沖合底びき網漁船が解禁直後に利用する但馬沖漁場におけるオスがにの推定現存尾数は、前年及び過去5年平均を上回ると推定されました。また、メスがに（クロコ）の推定現存尾数は、前年及び過去5年平均を下回ると推定されました。以上から、解禁直後の但馬沖漁場における漁獲量（1隻当たり）は、オスがにが前年を上回り、メスがにが前年を下回ると予想されます。

2 浜田沖～丹後沖漁場（漁期全般）

- 本県沖合底びき網漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体におけるズワイガニ資源量は、オスがにが前年並み、メスがにが前年をやや上回ると推定されており、漁獲量についてもオスがにが前年並み、メスがにが前年をやや上回ると予想されます。ただし、オスがには甲幅120mm以上の大型個体が少ないことが予想されます。

根拠となった情報については別添資料（但馬水産技術センターだより）を参照してください。

問い合わせ先

兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター

研究員 田村一樹

電話 0796-36-0395



但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2440号）

令和6年10月25日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

令和6年漁期 スワイガニ資源の状況

調査船「たじま」の調査結果などから見た、令和6年漁期における本県沖合底びき網漁船が利用する海域のスワイガニ資源の状況について報告します。

1. 推定されたスワイガニ資源の状況

但馬沖漁場（解禁直後）

本県沖合底びき網漁船が解禁直後に利用する但馬沖漁場におけるオスがにの推定現存尾数は、前年及び過去5年平均を上回ると推定されました。また、メスがに（クロコ）の推定現存尾数は、前年及び過去5年平均を下回ると推定されました。

浜田沖～丹後沖漁場（漁期全般）

本県沖合底びき網漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体におけるスワイガニ資源量は、オスがにが前年並みと推定されましたが、甲幅120mm以上の大型個体については少ないことが予想されます。また、メスがには前年をやや上回ると推定されました。

2. 根拠となった情報

但馬沖漁場（解禁直後）

調査船「たじま」によるスワイガニ漁期前調査（調査月：10月）

調査船「たじま」により、2024年10月1～2、11、16日に香住沖の水深200～350mおよび浜坂沖、津居山沖の水深235～245mに設けた計14定点（図1）においてトロール網（3ノット、30分曳き）による試験操業を実施しました。

オスがには、香住沖の水深275mおよび浜坂沖の水深240mにおける入網が中心でした（表1）。入網結果から推定された但馬沖漁場における推定現存尾数は6.9万尾で、前年比115.0%、過去5年平均比は110.9%となりました（表2）。

メスがには、香住沖の水深240mおよび浜坂沖の水深235～240mにおける入網が中心でした（表1）。入網結果から推定された但馬沖漁場における推定現存尾数は14.0万尾で、前年比65.4%、過去5年平均比82.1%となりました。（表2）

なお、前年度及び今年度調査で入網したスワイガニの甲幅組成は図2、入網した雄のスワイガニのうち、自主規制により漁獲対象となるオスがに及びメスがにの甲幅組成は図3のとおりです。

浜田沖～丹後沖漁場（漁期全般）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部調査（調査月：5～6月）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部は、A 海域（富山県以西）における 2024 年漁期当初の資源量をオスがにが前年並み、メスがにが前年をやや上回ると推定しています（図 4）。ただし、甲幅 120mm 以上の大型のオスがにの資源量は少ないことが分かっています。

3. その他の情報

- 香住沖の水深 200mにおいてミズがにが、香住沖の水深 235～240m 及び津居山沖の 245m においてアカコが多く入網しました。特に、ミズガニについて、直近 5 年で最も多い 74.4 万尾が現存すると推定され（表 2）、水産研究・教育機構による調査でもミズがにが多いことが分かっていることから、他の漁場でも多く入網する可能性があります。11 月におけるミズがに及びアカコの再放流後の生残率は低いため（山崎ら 2011、2013）、それらが多く混獲される海域で操業する場合、迅速な再放流に努めてください。（次漁期には、ミズがにが大型のミズがにもしくはオスがにとして、アカコがクロコとして漁獲可能となります。）
- 2026 年以降に漁獲対象となる 9～10 歳の若齢個体の現存尾数は、昨年に引き続き、多く推定されています。若齢個体も 11 月における再放流後の生残率が低いため、それらが多く混獲される海域での操業は控えてください。
- アカガレイの 1 網当たり平均入網重量は 7.6kg で、前年並みでした（表 1）。
- 10 月上旬に実施した香住沖における調査では、1 網当たり 43～310kg の大型クラゲの入網がありました。中甸以降に実施した浜坂沖及び津居山沖における調査では、減少傾向にありました（表 1）。

以上、解禁初日の漁場選択の参考にしてください。

お問い合わせ先：兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター（担当：田村・岸本・大谷）
TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684
HP：<http://hyogo-suigi.jp/tajima/>

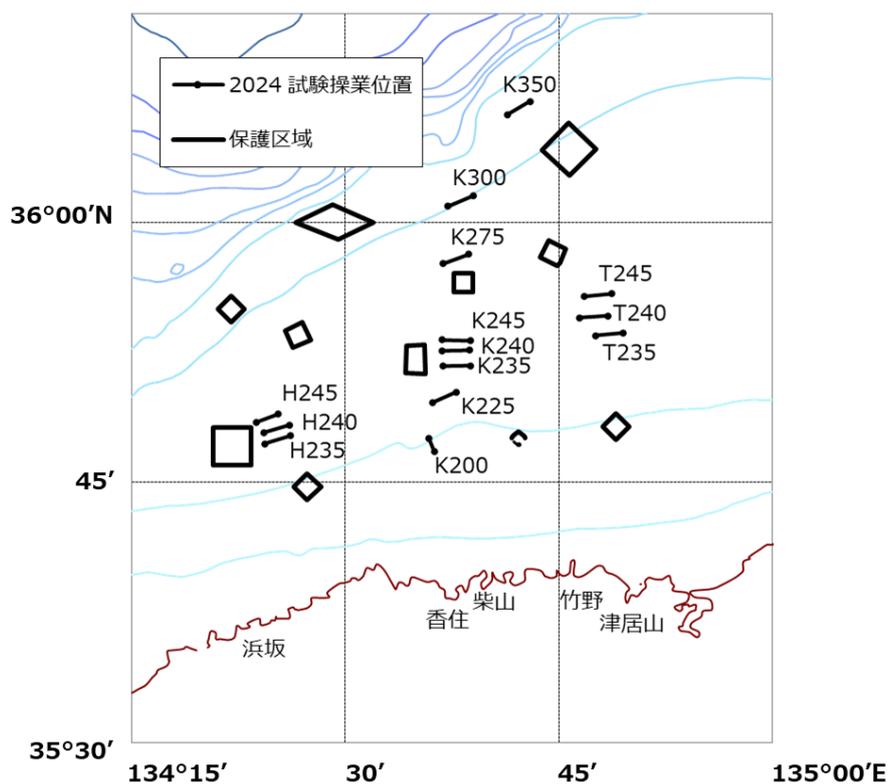


図 1 但馬沖調査海域図

表 1 漁場別のズワイガニ等入網状況

漁場	年月日	操業地点	曳網水深 (m)	ズワイガニ 入網数 (尾/網)			アカガレイ 入網重量 (kg/網)	大型クラゲ 入網重量 (kg/網)
				オスガニ*1	メズガニ*2	メスガニ (クロコ)		
津居山・ 竹野沖	2024/10/16	T245	246	8	5	0	8.7	25
	"	T240	240	3	3	15	1.3	8
	"	T235	235 → 236	3	4	26	0.1	52
香住沖	2024/10/2	K350	347 → 345	0	29	1	4.4	45
	"	K300	302 → 303	6	17	0	5.5	43
	"	K275	278 → 276	10	1	0	12.0	310
	2024/10/1	K245	250 → 245	7	2	8	5.1	125
	"	K240	246 → 240	0	2	118	18.8	310
	"	K235	239 → 232	3	0	43	9.5	120
	"	K225	224	0	10	0	31.1	50
2024/10/2	K200*3	201 → 189	1	136	0	1.1	125	
浜坂沖	2024/10/11	H245	247 → 246	9	0	12	1.7	100
	"	H240	240	12	0	94	4.8	16
	"	H235	236 → 237	3	0	86	2.1	50

* 1 : かたがに (12 歳以上 (甲幅 94mm 以上)、硬甲、ハサミ大)

* 2 : 11 歳 (甲幅 72~93.9mm) でハサミが小さく、脱皮前の個体
および 12 歳以上 (甲幅 94mm 以上) でかたがに以外の個体

* 3 : 15 分曳網

表2 調査海域におけるズワイガニの推定現存尾数（単位：万尾）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	前年比	過去5年平均	過去5年平均比
オスガに	2.7	4.7	8.6	9.1	6.0	6.9	115.0%	6.2	110.9%
ミスガに	8.6	23.8	34.8	26.8	26.9	74.4	276.6%	24.2	307.7%
メスガに (クロコ)	5.9	8.8	35.7	13.5	21.4	14.0	65.4%	17.1	82.1%

※採集効率は1.0とし、東経134°20'～134°50'（居組～津居山間）で水深190～360mの範囲における推定現存尾数

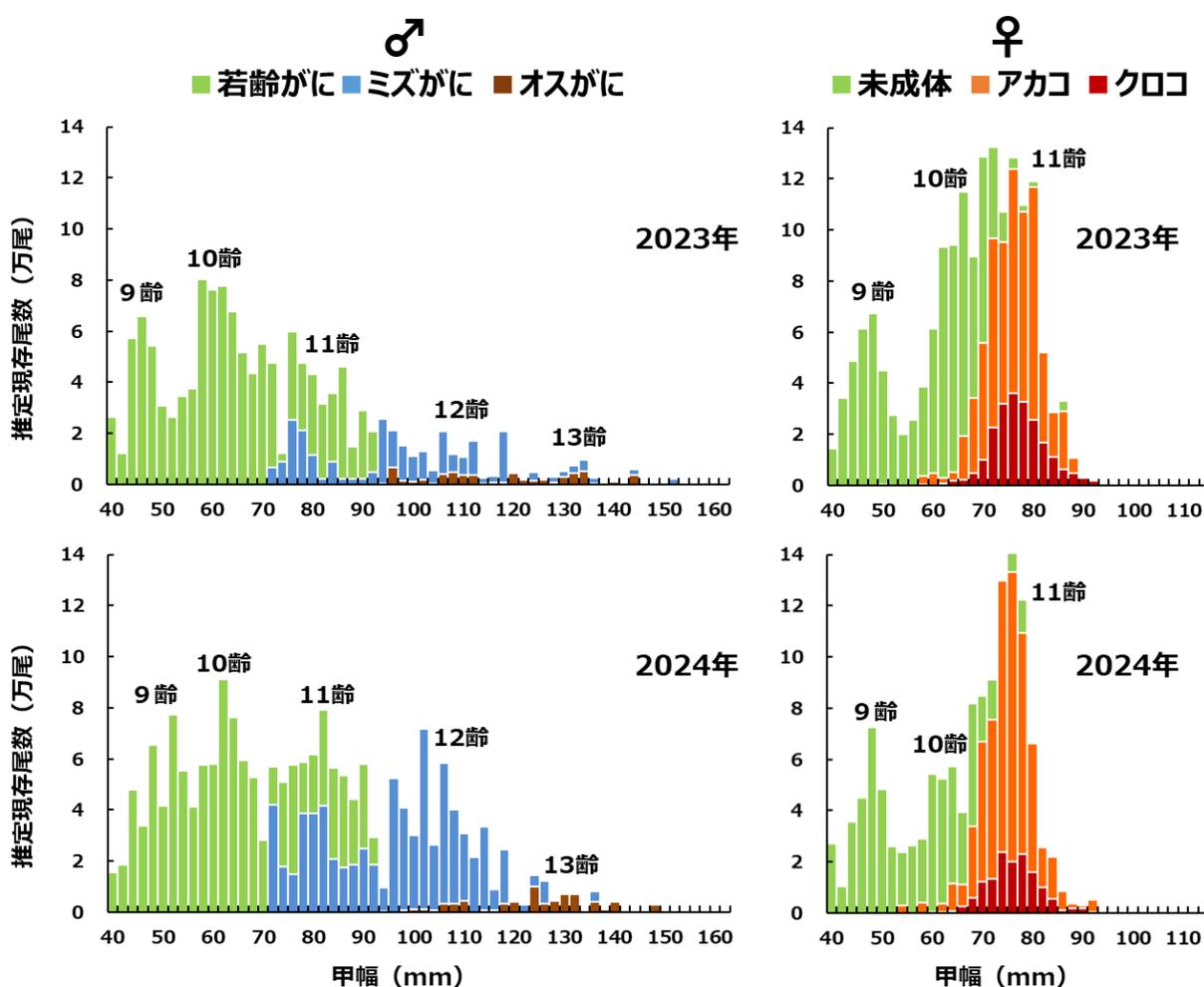


図2 2023、2024年のズワイガニ漁期前調査結果から得られたズワイガニの甲幅組成
(10月、但馬沖漁場)

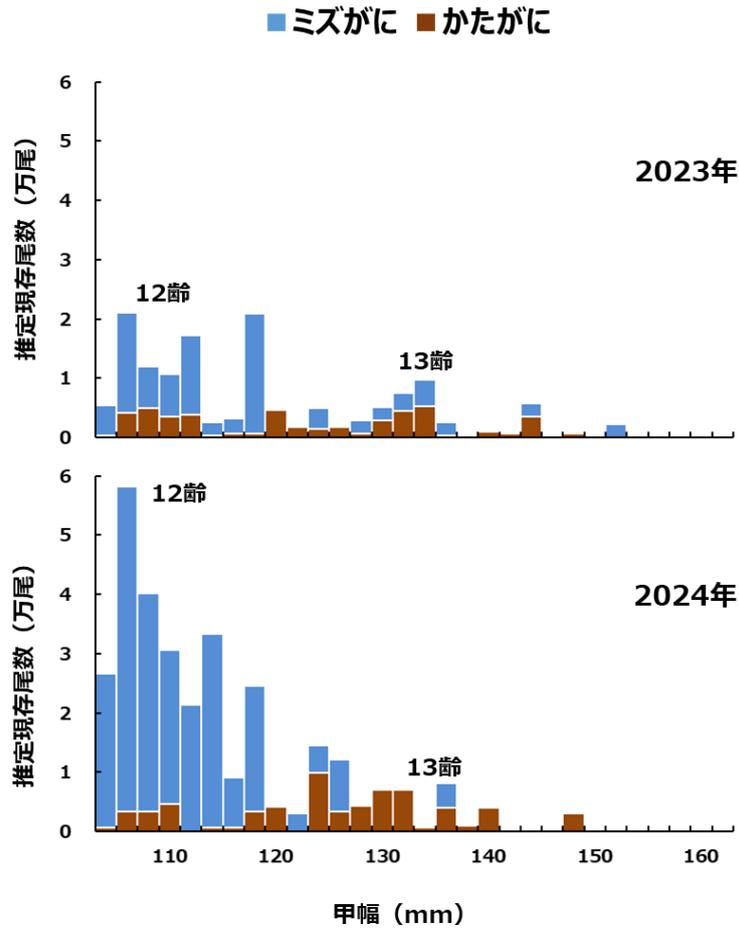


図3 2023、2024年のズワイガニ漁期前調査結果から得られた自主規制により漁獲対象（甲幅105mm以上）となるオスガニ、ミズガニの甲幅組成（10月、但馬沖漁場）

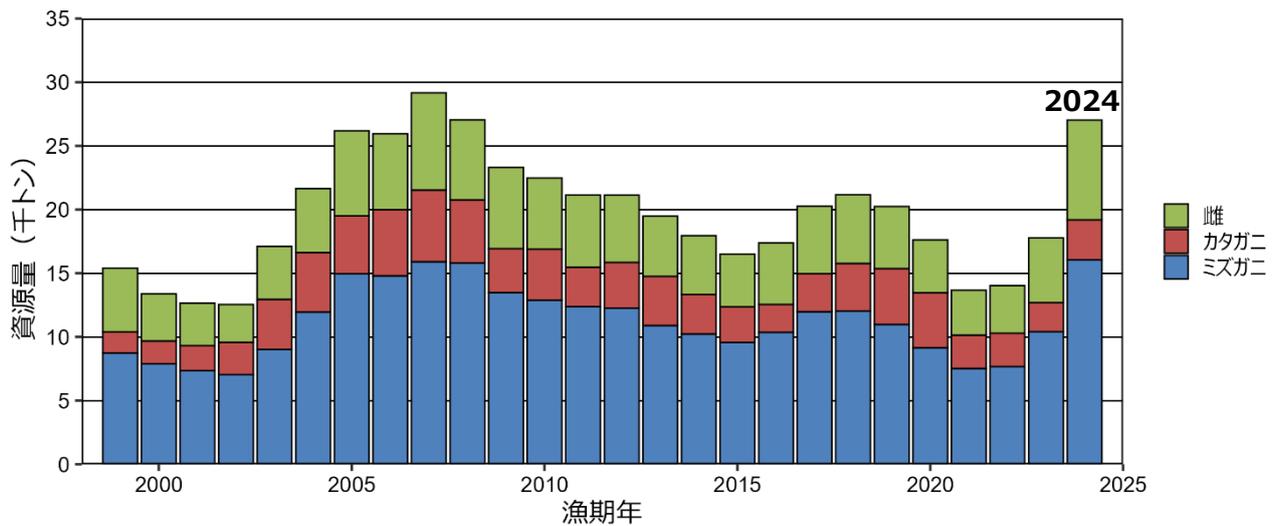


図4 日本海A海域（富山県以西）における推定漁獲対象資源量（水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部 作成資料より）